

30年12月 NMC月例会報告

1. 開催日 : 平成30年12月17日(月)18:30~20:00 (質疑応答45分を含む)
2. 開催場所 : 阿佐ヶ谷地域区民センター会議室第2集会室
(20:00~21:15有志懇親会@「鳥良商店 阿佐ヶ谷店」)
3. 演題 : 歴史に学ぶ会古市・百舌鳥古墳群への旅
4. 講師 : NMC 小林利郎会員(歴史に学ぶ会、他)
5. 参加者 : 15名
6. 内容 :

小林会員が、2018年9月4日~6日の歴史に学ぶ会の研修旅行(13名参加)で訪れた古市・百舌鳥古墳群および古墳時代についてスライドと小林会員が長年研究した参考資料を使用し、説明された。概要は以下の通り。

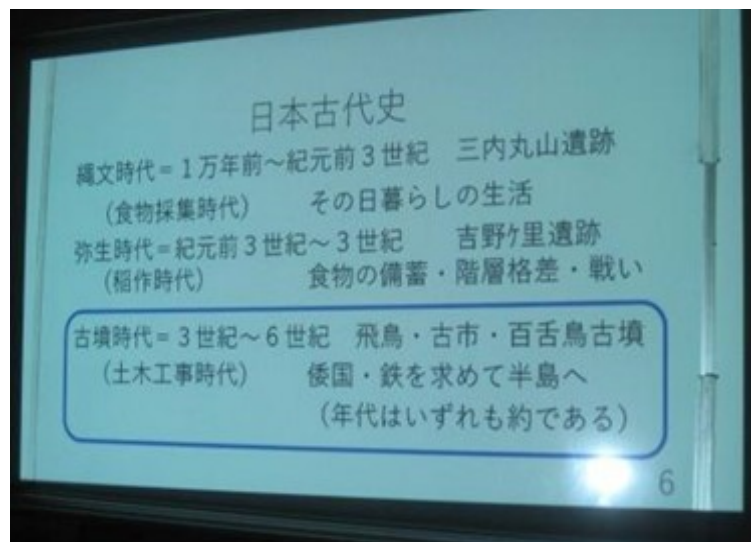


小林利郎会員

今回の研修旅行は、平成26年の縄文時代の三内丸山遺跡と平成28年の弥生時代の吉野ヶ里遺跡に続く古墳時代で、世界三代墳墓(ピラミッド、始皇帝陵)の一つといわれる大仙古墳(伝「仁徳陵」)のある飛鳥・古市・百舌鳥遺跡を視察し、これで日本古代史の3時代の代表的遺跡を視察したことになる。

古墳時代は3世紀~7世紀で、古代の墳墓(古墳)は墳丘を持つ墓で、大王墓は巨大な古墳で、前方後円墳が多い。最大の大仙古墳(全長486m)は、大林組の推計によると当時の工法では15年8ヶ月、延6,807,000人(2,000人/日)、総工費796億円とのこと。さらに、大型古墳の出現に関して、半島や宋等の国際的背景や鉄器の影響も明らかにし、なぜ大型古墳が前期は大和に、中期には河内・和泉に多くなるのはなぜか、さらにその出土品により、大和政権(倭国連合政権)の成立、鉄器の出現による鉄製兵器、大土木工事と農業の生産性の飛躍的向上を説明し、さらになぜ古墳が終末を迎えたかを、646年(大化2)の薄葬令の発布、半島情勢の緊迫化し、決定的には663年(天智2)白村江の敗戦で半島式山城築城に移ったためと紹介された。

講演後の質疑応答も活発に行われ、古墳時代の背景や歴史的な位置づけが整理・理解できたとの意見が多くだされ有意義な会であった。
(文責:細越監事、写真:宮崎理事)



出席者: 小川(啓)、木野、石村、鈴木、高橋、江尻、小川(俊)、小高、内田、小池、堀越、宮崎、廣瀬、
(講師)小林、(司会)細越